

「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における工程表

申請担当大学名	埼玉医科大学
連携大学名	群馬大学
事業名	埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	<p>地域への理解と課題の発見解決に対する意欲を持ち、地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドを持った医師、小児科・産婦人科・救急医療・感染症科など診療科偏在を考慮し、総合診療・プライマリケアから高度・先端医療まで、これから必要となる臨床能力を身につけている医師を養成することを通して、広く地域医療を志す卒業生を増やし、さらに、現在喫緊の課題となっている埼玉県群馬県の県境の医師不足地域で勤務する医師、小児科・産婦人科・救急医療を専攻する医師の増加を目指している。教育プログラムは令和6年度には完成し、令和6年度以降、プログラム1は750名、プログラム2は500名、プログラム3は40名、プログラム4は20名、プログラム5は16名が、各プログラムを受講する。</p> <p>これらが最終的には、急激に高齢化が進む両県民の健康と医療を支え、健康長寿の実現に資すると考えている。また、これらの取り組みをホームページ等を通して広く県民に周知することを通して、地域医療の課題に関心を持ち、地域医療を志す高校生を増やすことに繋げる。</p>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告、FDを目的としたシンポジウムを開催：年に1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1新規受入：130名 ・プログラム2新規受入：130名 ・プログラム3新規受入：19名 ・プログラム4新規受入：20名 ・プログラム5新規受入：10名 ・利根川プログラム実習協力医療施設：2施設 ・シンポジウムを開催：年に1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1新規受入：130名 ・プログラム2新規受入：130名 ・プログラム3新規受入：19名 ・プログラム4新規受入：20名 ・プログラム5新規受入：16名 ・在宅医療実習受入れ施設数：30施設 ・利根川プログラム実習協力医療施設：2施設 ・シンポジウムを開催：年に1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1新規受入：130名 ・プログラム2新規受入：130名 ・プログラム3新規受入：19名 ・プログラム4新規受入：20名 ・プログラム5新規受入：16名 ・在宅医療実習受入れ施設数：40施設 ・利根川プログラム実習協力医療施設：3施設 ・シンポジウムを開催：年に1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1新規受入：130名 ・プログラム2新規受入：130名 ・プログラム3新規受入：19名 ・プログラム4新規受入：20名 ・プログラム5新規受入：16名 ・在宅医療実習受入れ施設数：50施設 ・利根川プログラム実習協力医療施設：3施設 ・シンポジウムを開催：年に1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1新規受入：130名 ・プログラム2新規受入：130名 ・プログラム3新規受入：19名 ・プログラム4新規受入：20名 ・プログラム5新規受入：16名 ・在宅医療実習受入れ施設数：50施設 ・利根川プログラム実習協力医療施設：5施設 ・シンポジウムを開催：年に1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1新規受入：130名 ・プログラム2新規受入：130名 ・プログラム3新規受入：19名 ・プログラム4新規受入：20名 ・プログラム5新規受入：16名 ・在宅医療実習受入れ施設数：50施設 ・利根川プログラム実習協力医療施設：5施設 ・シンポジウムを開催：年に1回
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1、2、5の試行 ・連携会議の開催(年2回) ・外部評価委員会委員の選定 ・卒業時アンケート調査の実施 ・学生アンケート調査の実施 ・e-learningシステムの構築 ・連携医療機関の教育環境に関する聞き取り調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1、2、3、4、5の一部開講 ・連携会議の開催(年1回) ・外部評価委員会の開催(年1回) ・卒業時アンケート調査の実施 ・学生アンケート調査の実施 ・e-learningシステムの運営 ・外部評価委員会の事業評価を実施 ・連携医療機関の教育環境整備支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム1、2、3、4、5の全部開講 ・連携会議の開催(年1回) ・外部評価委員会の開催(年1回) ・卒業時アンケート調査の実施 ・学生アンケート調査の実施 ・e-learningシステムの運営 ・外部評価委員会の事業評価を実施 ・連携医療機関の教育環境整備支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携会議の開催(年1回) ・外部評価委員会の開催(年1回) ・卒業時アンケート調査の実施 ・学生アンケート調査の実施 ・e-learningシステムの運営 ・外部評価委員会の事業評価を実施 ・連携医療機関の教育環境整備支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携会議の開催(年1回) ・外部評価委員会の開催(年1回) ・卒業時アンケート調査の実施 ・学生アンケート調査の実施 ・e-learningシステムの運営 ・外部評価委員会の事業評価を実施 ・連携医療機関の教育環境整備支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携会議の開催(年1回) ・外部評価委員会の開催(年1回) ・卒業時アンケート調査の実施 ・学生アンケート調査の実施 ・e-learningシステムの運営 ・外部評価委員会の事業評価を実施 ・連携医療機関の教育環境整備支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携会議の開催(年1回) ・外部評価委員会の開催(年1回) ・卒業時アンケート調査の実施 ・学生アンケート調査の実施 ・e-learningシステムの運営 ・外部評価委員会の事業評価を実施 ・連携医療機関の教育環境整備支援

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 映像コンテンツ作成数: 15本 事業報告、FDを目的としたシンポジウム参加者数: 50名 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム1受講延べ数: 350名 プログラム2受講延べ数: 150名 プログラム3受講延べ数: 35名 プログラム4修了者数: 20名 プログラム5修了者数: 10名 大学内、大学間共同開講受講者数: 160名 医師不足地域での地域卒学生の実習参加者数: 20名 映像コンテンツ作成数: 15本 シンポジウム参加者数: 100名 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム1受講延べ数: 750名 プログラム2受講延べ数: 500名 プログラム3受講延べ数: 35名 プログラム4修了者数: 20名 プログラム5修了者数: 16名 大学内、大学間共同開講受講者数: 160名 医師不足地域での地域卒学生の実習参加者数: 30名 映像コンテンツ作成数: 15本 シンポジウム参加者数: 100名 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム1受講延べ数: 750名 プログラム2受講延べ数: 500名 プログラム3受講延べ数: 40名 プログラム4修了者数: 20名 プログラム5修了者数: 16名 大学内、大学間共同開講受講者数: 160名 医師不足地域での地域卒学生の実習参加者数: 30名 映像コンテンツ作成数: 5本 対象外の学生・生徒の映像コンテンツの利用者数: 15名 シンポジウム参加者数: 100名 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム1受講延べ数: 750名 プログラム2受講延べ数: 500名 プログラム3受講延べ数: 40名 プログラム4修了者数: 20名 プログラム5修了者数: 16名 大学内、大学間共同開講受講者数: 160名 医師不足地域での地域卒学生の実習参加者数: 30名 コンテンツ作成数: 5本 対象外の学生・生徒の映像コンテンツの利用者数: 15名 シンポジウム参加者数: 100名 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム1受講延べ数: 750名 プログラム2受講延べ数: 500名 プログラム3受講延べ数: 40名 プログラム4修了者数: 20名 プログラム5修了者数: 16名 大学内、大学間共同開講受講者数: 160名 医師不足地域での地域卒学生の実習参加者数: 30名 映像コンテンツ作成数: 5本 対象外の学生・生徒の映像コンテンツの利用者数: 20名 シンポジウム参加者数: 100名 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム1受講延べ数: 750名 プログラム2受講延べ数: 500名 プログラム3受講延べ数: 40名 プログラム4修了者数: 100名 プログラム5修了者数: 15名 プログラム2修了者数: 100名 プログラム3修了者数: 15名 プログラム4修了者数: 20名 プログラム5修了者数: 16名 大学内、大学間共同開講受講者数: 160名 医師不足地域での地域卒学生の実習参加者数: 30名 映像コンテンツ作成数: 5本 対象外の学生・生徒の映像コンテンツの利用者数: 20名 シンポジウム参加者数: 100名
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 専用Webサイト作成 医学教育学会で本事業の取組を毎年発表 	<ul style="list-style-type: none"> 専用Webサイトに学修成果を公開 外部評価委員会の事業評価を反映 医学教育学会で本事業の取組を毎年発表 	<ul style="list-style-type: none"> 専用Webサイトに学修成果を公開 外部評価委員会の事業評価を反映 医学教育学会で本事業の取組を毎年発表 	<ul style="list-style-type: none"> 専用Webサイトに学修成果を公開 外部評価委員会の事業評価を反映 医学教育学会で本事業の取組を毎年発表 	<ul style="list-style-type: none"> 専用Webサイトに学修成果を公開 外部評価委員会の事業評価を反映 医学教育学会で本事業の取組を毎年発表 	<ul style="list-style-type: none"> 専用Webサイトに学修成果を公開 外部評価委員会の事業評価を反映 医学教育学会で本事業の取組を毎年発表 	<ul style="list-style-type: none"> 専用Webサイトに学修成果を公開 外部評価委員会の事業評価を反映 医学教育学会で本事業の取組を毎年発表
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医大地域枠入学希望者: 50名 群馬大学地域医療枠卒業生の群馬県内施設で初期研修: 90% 群馬大学地域医療枠卒業生のうち、群馬県内の総合診療科・小児科・産婦人科・救急科専攻医: 2名 群馬大学地域医療枠卒業生の医師不足地域における勤務者: 40% 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医大地域枠入学希望者: 50名 埼玉医大地域枠卒業生の県内施設での初期研修: 90% 群馬大学地域医療枠卒業生の群馬県内施設で初期研修: 90% 群馬大学地域医療枠卒業生のうち、群馬県内の総合診療科・小児科・産婦人科・救急科専攻医: 2名 群馬大学地域医療枠卒業生の医師不足地域における勤務者: 40% 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医大地域枠入学希望者: 50名 埼玉医大地域枠卒業生の県内施設での初期研修: 90% 埼玉医大地域枠卒業生のうち、専門研修にて県内小児科・産婦人科・救命救急科・総合診療専攻: 10名 埼玉医大地域枠卒業生のうち、専門研修にて県内小児科・産婦人科・救命救急科・総合診療専攻: 3名 群馬大学地域医療枠卒業生の群馬県内施設で初期研修: 90% 群馬大学地域医療枠卒業生のうち、群馬県内の総合診療科・小児科・産婦人科・救急科専攻医: 2名 群馬大学地域医療枠卒業生の医師不足地域における勤務者: 40% 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医大地域枠入学希望者: 50名 埼玉医大地域枠卒業生の県内施設での初期研修: 90% 埼玉医大地域枠卒業生の医師不足地域での勤務数: 5名 埼玉医大卒業生のうち、専門研修にて県内小児科・産婦人科・救命救急科・総合診療専攻: 10名 埼玉医大地域枠卒業生のうち、専門研修にて県内小児科・産婦人科・救命救急科・総合診療専攻: 3名 群馬大学地域医療枠卒業生の群馬県内施設で初期研修: 90% 群馬大学地域医療枠卒業生のうち、群馬県内の総合診療科・小児科・産婦人科・救急科専攻医: 2名 群馬大学地域医療枠卒業生の医師不足地域における勤務者: 40% 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医大地域枠入学希望者: 50名 埼玉医大地域枠卒業生の県内施設での初期研修: 90% 埼玉医大地域枠卒業生の医師不足地域での勤務数: 5名 埼玉医大卒業生のうち、専門研修にて県内小児科・産婦人科・救命救急科・総合診療専攻: 12名 埼玉医大地域枠卒業生のうち、専門研修にて県内小児科・産婦人科・救命救急科・総合診療専攻: 5名 群馬大学地域医療枠卒業生の群馬県内施設で初期研修: 90% 群馬大学地域医療枠卒業生のうち、群馬県内の総合診療科・小児科・産婦人科・救急科専攻医: 2名 群馬大学地域医療枠卒業生の医師不足地域における勤務者: 40% 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医大地域枠入学希望者: 50名 埼玉医大地域枠卒業生の県内施設での初期研修: 90% 埼玉医大地域枠卒業生のうち、専門研修にて県内小児科・産婦人科・救命救急科・総合診療専攻: 5名 群馬大学地域医療枠卒業生の群馬県内施設で初期研修: 90% 群馬大学地域医療枠卒業生のうち、群馬県内の総合診療科・小児科・産婦人科・救急科専攻医: 2名 群馬大学地域医療枠卒業生の医師不足地域における勤務者: 40% 	
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医大学生アンケートにおける地域医療への関心のある学生の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医大学生アンケートにおける地域医療への関心のある学生の増加 埼玉医大の専門研修プログラムでの指定地域医療機関との連携拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医科大学卒業時アンケートにおける地域医療を志す学生の増加 埼玉医大学生アンケートにおける地域医療への関心のある学生の増加 埼玉医大の専門研修プログラムでの指定地域医療機関との連携拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医科大学卒業時アンケートにおける地域医療を志す学生の増加 埼玉医大学生アンケートにおける地域医療への関心のある学生の増加 埼玉医大の専門研修プログラムでの指定地域医療機関との連携拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医科大学卒業時アンケートにおける地域医療を志す学生の増加 埼玉医大学生アンケートにおける地域医療への関心のある学生の増加 専門研修プログラム修了者の指定地域勤務数の増加。 埼玉医大の専門研修プログラムでの指定地域医療機関との連携拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉医科大学卒業時アンケートにおける地域医療を志す学生の増加 埼玉医大学生アンケートにおける地域医療への関心のある学生の増加 専門研修プログラム修了者の指定地域勤務数の増加。 埼玉医大の専門研修プログラムでの指定地域医療機関との連携拡充。 	

③ 選定委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療現場・自治体等のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと。	本事業では、埼玉県・群馬県、及び両県の医師会、医師不足地域の医療機関と連携して、事業を推進する。年に1回は、連携推進会議を開催し、毎年の方針を検討するが、2か月に1回埼玉医科大学、群馬大学が開催する運営会議にも両県担当者がオブザーバーとして参加する。連携医療機関にも教育環境の整備だけでなく、大学との連携にあたって必要な事項を意見交換する場を設けるとともに、卒業生に対するフィードバックを受けることで、ニーズを把握し、教育の改善に努める。
②	代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は、成果の波及とともに更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと。	埼玉・群馬県境の医師不足地域の医療情勢について早期から学び、卒業後、若手医師として県境地域での診療に携わる中で、地域医療に必要とされる意識やスキルの更なる涵養を目指す。代表校、連携校とともに既に連携医療機関での実習が行われており、補助期間中に実施する教育環境の整備を通して、地域医療機関における教育力向上を図るほか、指導医に臨床教授、客員教授などを授与し教育を継続する。埼玉県では本プログラムを履修した卒業生、群馬県でも地域医療の最前線で診療に従事する地域医療枠卒業生医師をはじめとした上級医や指導医と連携し、後進の育成にも努める。補助期間終了後も協定を継続し、両大学と関係機関が協働して本事業の継続を目指す。また、代表校である埼玉医科大学は、本事業を大学の長期計画に位置づけるなど、事業の継続を前提に長期計画を策定している。

④ 選定委員会からの主なコメントに対する対応方針

選定委員会からの主なコメント(改善を要する点)	対応方針
人口が多いため医師不足状態という違った視点での重要な課題・特徴もあると考えられる。可能であれば、そのことを強く意識した新展開も欲しかった。	本事業では、人口が多いため医師不足に対応し、小児科・産婦人科・救命救急科に従事する医師の育成やがん医療・ゲノム医療・難病医療などの高度先進医療が必要な住民に対する医療を適切な医療機関と連携し提供するためのマインドや総合診療的なスキルを身につけた医師の育成も目指している。また、人口あたりの医師数が少ないことは人口が多いことによる、という解釈は、埼玉県全県での算出では成り立つが、埼玉県北部や秩父地域に関しては必ずしもそうではないと考えられ、医師偏在指数は全国で44位と、埼玉県においては医師の偏在が大きな問題となっている。本プログラムは、これら医師偏在や県としての診療科偏在を是正する効果を目指すものではあるが、今後地域のニーズとして埼玉県、群馬県、地域医療機関から意見を聴取し、「人口が多いため医師不足状態という違った視点での重要な課題・特徴」について検討を行い、それを踏まえた展開についても検討する。
今後の実施体制については記載されているが、事業開始に向けた準備状況や、過去に整備された資源の活用に関する具体的な記載に乏しい。	これまで感染症医療人材やウィズコロナ時代の補助事業で整備された遠隔診療室、PC等を用いたシナリオベースの感染症の初診外来をイメージした実習をプログラム2で計画している。また、同様に整備された様々なシミュレータを用いた実習を行う。学外医療機関については、令和4年度以前から、地域枠医学生の教育のための病院見学受け入れや講演会での地域医療教育などを行っていた。本プログラムでは各医療機関の教育環境を整備し、これらをさらに拡充することになる。
自己評価体制については、記載では中間年まで外部評価を受けない計画になっており、改善が望まれる。	毎年の自己点検評価の他、令和5年度から外部評価委員会を立ち上げ、外部評価を行う。外部評価委員会は年に1回実施し、次年度の活動に反映する。
連携校側の取組にもう少し工夫がほしいと考えられた。	連携校である群馬大学では、地域医療枠学生を中心に、県境地域の医療機関での実習や地域医療体験セミナーへの参加を通して、6年間継続的に、へき地診療も含めた医師不足地域での地域医療実習を行うなど、多くの取り組みを実施してきた。今回はそれらを基盤に開発した2つのプログラムだけに絞って申請している。2つの科目は、それぞれ多くの工夫がされている。「はじめて学ぶ地域医療」は教養教育の科目で、医学科以外の学生も共に学び議論することにより、広い視野で考える姿勢が学べる。初学年のうちに地域医療を学ぶ早期医療体験ができる。埼玉医大と共同開講することにより、埼玉と群馬の地域医療の課題を知ることができる。「利根川プログラム」は、今回の連携を象徴するプログラムで有り、群馬大学では専門科目として、低学年時から早期に地域医療体験することで地域医療マインドを育成するものである。さらに県境の医療機関との連携を基盤に、埼玉医科大学学生も参加しての実習であり、大きな成果が期待される。
取組の継続に関する記載がややあいまいで、実効性が低い。正規科目に取り入れることで科目としては継続できても、コンテンツの更新や、両大学・地域との連携が維持できるのか、疑問が残る。	埼玉医科大学、群馬大学とも、本事業に加わった地域医療機関とは今までも教育連携しており、本事業で各医療機関の教育環境が整備されれば、今まで以上の教育連携が継続され、また指導医に臨床教授、客員教授などを授与し教育を継続する。さらに、補助期間終了後も協定を継続し、両大学と関係機関が協働して本事業の継続を目指す。埼玉医科大学では、大学直下に設置されている医学教育センター卒前医学教育部門(地域医学推進室、臨床実習推進室等)が本事業を担当しており、専任の教職員が配置されている。群馬大学には、群馬県地域医療支援センターの専任医師が本事業の担当者となっており、県との連携のもと事業の継続を目指す。従来、両大学の関係性は両県にゆかりがある者が多く、互いに連携を可能にする土壌が育っている。本教育プログラムを修了した後、県境地域の診療に従事する若手医師が、地域医療枠卒業医師をはじめとした上級医や指導医と連携し、後進の育成に努めることで、地域医療マインドの更なる涵養及び両大学・地域との連携の強化につながる。